



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2015/02/02(月)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 161

『2014 長崎がんばらんば国体に参加して』

北海道少年男子監督
田島 範人

東日本大震災復興支援第69回国民体育大会『長崎がんばらんば国体』が、2014年10月12日～22日の期間で長崎県にて開催されました。長崎駅前を中心に長崎県内は歓迎ムード一色であり、日本三大夜景に数えられる長崎市において開催される大会に参加できたことは、素晴らしい経験となりました。

今回の報告記は、【国体北海道予選会】【長崎国体までの事前準備】【長崎国体大会報告】に分けてご報告させていただきます。

【国体北海道予選会】

今年の国体北海道予選会は、例年開催されている江別市体育館が耐震工事のため使用できず、8月15日～17日の期間で旭川市にて開催されました。苫小牧選抜は、駒大苫小牧高校と北海道栄高校の選手で構成、スタッフはヘッドコーチを私が務め、アシスタントコーチには北海道栄高校の木村匡宏先生にご協力をいただきました。幸せなことに、私と駒大苫小牧高校の選手は、直前に開催されたインターハイに出場させていただきました。ここで得た反省点を基に、国体でのチーム作りを考えました。予選会に向けて取り組んだことは、以下の内容です。

① シュートセレクションの再構築

- 私達のチームは、トランジションを重視し、ファーストブレイクから得点を取ることを目指してきました。もちろん、理想はレイアップシュートなどゴール付近での得点ですが、3ポイントシュートを含めたノーマークのシュートは積極的に打ち、入らなくてもオフェンスリバウンドを頑張っ、もう一度攻撃を仕掛けていました。しかし、そのシュートも飛び抜けて高確率で成功するわけではなく、オフェンスリバウンドが取れなくなると、逆に走られる状態に陥っていました。また、自チームのオフェンストランジションよりも優れたディフェンストランジションを持つチームには、最初のシュートセレクションさえも与えてもらえず、苦し紛れの1対1など、タフショットを選択させられていました。以上の問題点はインターハイの2回戦で現れます。相手の長身選手にディフェンスリバウンドを支配され、走られてしまう展開でした。そのため、ファーストブレイクによってイーージーシュートが出来ない場合、セカンダリーブレイクからセットオフェンスへとスムーズに移行させ、より良いシュートセレクションを選択する必要性を感じていました。インターハイを終え、帰道前にチームの再構築と国体北海道予選会に向けた強化を図るために、駒澤大学や明治大学を訪れ、大学生の胸を借りました。この練習試合の中でスクリーンの活用を学び、早速セットオフェンスに取り入れることにしました。こうして、ファーストブレイクでのイーージーシュートを選択できない場合に、打ち急がず、次のシュートチャンスを作り出すオフェンスへ移行することに取り組みました。結果、予選会では40分間での攻撃回数

は減りましたが、3試合を通じた平均得点は81.6点。十分な得点を奪うことができたことに加え、シュートセレクションの選択が向上したことで、逆速攻を出されることも少なくなり、無駄な失点も減らすことができました。

② 1対1でのディフェンスの粘り

- 当たり前のことですが、1対1の攻防はバスケットボールの基本だと考えます。チームディフェンスとしてのヘルプ&ローテーションは、あくまでも危機管理、1対1を破られた時の備えであって、失点を防ぐ万能な方法ではないと考えます。しかし、チームディフェンスを追求するなかで、選手一人一人の、1対1のディフェンスへの意識が希薄になり、失点はヘルプ&ローテーションの精度が低いことが原因であると選手たちが考えているように感じました。現に、簡単にドライブを許している選手が、チームメイトにヘルプをもっと早めるように要求しているケースがありました。つまり、オフェンスに1対1を自由にさせている状態で、チームディフェンスをしている。言い換えれば、いつもアウトナンバーを守っている状態です。これでは失点する確率が非常に高まります。そのため、もう一度自分のマークマンに責任を持つこと、絶対に抜かれない、簡単にシュートを打たせないという1対1の粘り強さを要求しました。予選会では、選手たちが見事に応えてくれたことで、3試合の平均失点は58.6点。これが、予選会で優勝することができた最大の要因であると考えています。

【長崎国体までの事前準備】

① 北海道選抜の選手選考

- 北海道予選会は苫小牧選抜として15名で臨みましたが、長崎国体では11名に絞らなければなりませんでした。出来ることならば、全道優勝を勝ち取ったメンバーを全員ベンチに座らせてあげたいという思いでしたが、それが叶わず、メンバー選考から漏れた選手には、今でも申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、北海道を代表して試合に臨むのですから、1つでも多く勝ち上がり好成績を目指す必要があります。そう考えた時、苫小牧選抜の戦力分析を行い、補強ポジションを検討し、得点力のある選手と外国人留学生とも対等に戦える長身選手が必要であると考え、札幌選抜から3名の選手（東海大四高校より内田君・白旗君・大内君）を補強させていただきました。

② 強化計画

- 9月上旬に選手選考が終わり、チームのスケジュールを作成しました。9月中は週末に合同練習、10月は4・5日に北海道バスケットボール協会主催の強化試合、翌週の10・11・12日は福岡県へ強化合宿、翌週の16日に長崎県へ出発。現地で調整を行い、18日からの競技開始という内容でした。

次に、合同練習の内容を考えました。9月は、苫小牧地区、札幌地区それぞれでウインターカップの地区予選が開催されるため、11名が揃って練習できる日数が多くありませんでした。そのため、ゲーム形式の練習を通じて、オフェンス面では、どの5人が一番コンビネーションが合うかをスタッフで模索することに時間を費やしました。また、ディフェンス面ではハーフコートマンツーマンと2-3のゾーンディフェンスの2種類を用意し、ローテーションのルールなどを確認しました。さらに、ベースラインとサイドラインからのインバウンズプレーを作り、選手と共に習得していきました。

こうして10月4・5日に開催された強化試合を迎えました。新潟県少年男子選抜と千葉県少年男子選抜と対戦させていただきました。オフェンスは試合を重ねるごとにリズムも良くなりましたが、もう少しドリブルドライブからの得点や崩しを増やしたいと感じました。ディフェンスはインサイドプレーヤーのマークマンのポジショニングに課題を見つけました。ただ、北海道選抜として戦った初めてのゲームとしてはある程度満足できる内容でした。

翌週の10月10・11・12日には福岡県で強化合宿を行いました。この合宿はアクション福岡を会場に、福岡県少年男子選抜、山口県少年男子選抜、福岡第一

高校（福岡県）、福大大濠高校（福岡県）、開志国際高校（新潟県）、延岡学園高校（宮崎県）が集いました。北海道選抜は福岡県選抜・山口県選抜と対戦させていただきました。福岡県選抜戦は、ディフェンスのプレッシャーが非常に強く、ボールマンが孤立するケースが多く見られました。ゲームの途中から内田をPGに起用してゲームが安定してきましたが、福岡県選抜の長身選手の走力が高く、ファーストブレイクからの失点を防ぐことができずに敗戦しました。山口県選抜戦は、相手のマンツーマンディフェンスとゾーンディフェンスのチェンジングに上手く対応することができ勝利。特にゾーンに対してのオフenseは、ピックからドリブルキックアウト、ハイ・ローの合わせの2パターンを確認することができました。また、山口県選抜のオフenseは、長身選手はいませんでした。豊富な運動量で5アウトからカットを繰り返し、オフボールスクリーンも巧みでしたので、ゾーンディフェンスで対応しました。ゾーンディフェンスの効果はありましたし、リバウンドからのファーストブレイクも随所で見られましたが、ショートコーナー付近での受け渡しにミスが生じるケースがあり、コミュニケーションを徹底するといった課題が見つかりました。

なお、福岡県での強化合宿を開催するに当たり、福岡県バスケットボール協会の皆様をはじめ、多くの方々にご尽力賜りました。特に、福岡第一高校の井手口先生には、宿舎の手配や選手の送迎など、大変お世話になりました。この場をお借りし皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【長崎国体大会報告】

① スカウティング

➤ 10月18日より1回戦がスタートしました。北海道選抜は1回戦シード、2回戦は鹿児島県選抜と福井県選抜の勝者との対戦でした。同日、北海道選抜は午前中に長崎西高校の体育館をお借りし、練習後、午後から鹿児島県選抜と福井県選抜の試合を全員で観戦。試合は福井県選抜が勝利。翌日の対戦相手は福井県選抜に決まりました。宿舎に戻り、スタッフで再度映像分析を行い、夕方ミーティングを行いました。福井県選抜は北陸高校の選手が中心で、1対1の能力が高く、ディフェンスもアグレッシブにプレッシャーをかけてくるチームでした。特に鹿児島県選抜戦で42得点（3ポイント11本を含む）の活躍を見せた#14の得点能力は高く、フォワード・センター陣はオフenseリバウンドに果敢に飛び込んでくる印象でした。

② 福井県選抜戦に向けて

➤ オフense面では、ボールマンに対してのプレッシャーが厳しいので、パスでボール動かしながらシュートへ向かうこと。また、内田、白旗の得点はある程度計算できたので、川村、大岸にはオフenseリバウンドとファーストブレイクへの参加、大内にはハイポストへフラッシュしてからのプレーを多用すること、小辻には積極的にドライブを仕掛けるように指示しました。

ディフェンス面では、マッチアップ、ハリーバック、ボールミートから踏み切り良くシュートを打たせないために相手の足元へ入ること、ドライブへの対処、ボックスアウトの徹底を確認。鹿児島県選抜戦で42得点を挙げた#14には白旗に徹底マークを任せました。また、相手のチームオフenseのバリエーションとして、ピックから始まるハイ・ロープレーと、ボールサイドカットから作ったスペースへのストロングサイドへのドライブの2点を選手と確認しました。

③ 福井県選抜戦の内容

➤ 予想通り福井県選抜はディフェンスのプレッシャーを強めてきました。特に、内田、白旗の両名には厳しくマークしてきました。ただ、北海道も白旗が相手の#14を完璧に抑え、序盤はロースコアの展開でしたが、途中#14が負傷退場してから、ディフェンスの的が絞りにくくなり、代わりに出てきた#8に活躍を許してし

まいりました。さらに、#5のポストプレーを警戒するように大内に指示を出していましたが、ポップアウトからのアウトサイドシュートを多く決められました。後半は内田、白旗の得点が伸び、大岸、川村もリバウンド・ルーズボールで貢献、山田も苦しいところで3ポイントを決めるなど奮闘しましたが、結果は77-88で敗戦となりました。

④ 福井県選抜戦の反省

- たくさんありますが、スカウティングの部分で情報不足でした。これは私の責任であり、選手には大変申し訳なく思っています。#5のシュートレンジの広さを認識していなかった点（北海道戦29得点）、前の試合にベンチスタートだった#8、#10の高い得点力（北海道戦2人で28得点）です。スカウティングの資料では、福井県選抜のオフェンスの多くは#14のフィニッシュで終わっていました。そのため、私達は#14を必死に抑えることを考えました。ただ、チームのエース級は当然徹底マークに合いますし、どのチームも抑えに来ます。今回は#14のようなチームのエースが抑えられたとき、もしくは不調などによってベンチに下がったとき、そのチームは誰を起点にオフェンスを展開してくるかという点を想定していませんでした。相手の最初の一手だけでなく、二手、三手先まで想定することができなかった私の力不足、経験不足でした。また、シーソーゲームの中でこちらが動くことによって逆に劣勢になるのではないかと、選手交代やディフェンスを変化させる踏ん切りも悪く、この点も悔やまれます。

【最後に】

今回の長崎国体に参加させていただくに当たり、北海道バスケットボール協会の皆様には、チーム編成へのご助言、申し込み手続きや強化合宿の実施に向けた準備、新潟県・千葉県少年男子選抜を招いての強化試合の実施など、多大なるご尽力を賜りました。また、国体北海道予選会から北海道栄高校の木村匡宏先生にはチームのアシスタントやマネジメントなど多くの役割を果たしていただきました。さらに、国体直前までU-18日本代表のスタッフとして海外遠征されていた東海大四高校の佐々木睦巳先生は、帰国後、休む間もなくチームに加わってくださり、私や木村先生に多くの経験に基づく知識や理論を惜しみなくアドバイスしてくださいました。私達にとってこの貴重な経験は、今後のコーチングの大きな糧となると思います。結果は2回戦敗退で終わってしまいましたが、この間苫小牧選抜として北海道予選に参加した15名の選手、北海道選抜として参加した11名の選手は練習から試合まで常に全力で取り組んでくれました。優秀な選手の皆さんと全道優勝、そして全国の舞台を経験することができたことを心から誇りに思います。佐々木先生、木村先生、選手の皆さん、北海道選抜へご支援、ご協力を賜りました皆様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。